

授 業 目 名	日常生活活動		授 業 形 態	講 義
			配 当 学 期	2 年(前期)
担 当 教 員 名	中村 侑造		単 位 数	1 単 位
			時 間 数	30 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	〔授業概要〕 日常生活活動(ADL:Activities of Daily Living)の概念、内容、評価方法について学ぶ。 正常な姿位や動作を理解することができる。 代表的な歩行補助具や福祉用具の種類や使用方法を知る。			
	〔学習目標〕 1. ADL の概念や内容、代表的な ADL 評価が説明できる。 2. QOL の概念や生活関連動作を説明できる。 3. 基本姿勢や基本動作について説明できる。 4. 代表的な歩行補助具や福祉用具の使用方法が指導できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容			
第 1 回	ADL の概念と歴史	[中村]		
第 2 回	ADL と障害	[中村]		
第 3 回	ADL と QOL	[中村]		
第 4 回	ADL と運動学①	[中村]		
第 5 回	ADL と動作指導①	[中村]		
第 6 回	ADL と動作指導②	[中村]		
第 7 回	ADL 評価①	[中村]		
第 8 回	ADL 評価②	[中村]		
第 9 回	ADL 評価③	[中村]		
第 10 回	ADL 評価④	[中村]		
第 11 回	模擬症例を用いた ADL 評価	[中村]		
第 12 回	ADL を支援する機器①	[中村]		
第 13 回	ADL を支援する機器②	[中村]		
第 14 回	動作指導の確認と環境調整	[中村]		
第 15 回	総括	[中村]		
評 価 方 法	定期試験(70%)と提出課題(30%)にて評価を行う。			
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 「日常生活活動学・生活環境学」 医学書院 「脳卒中患者の機能評価 SIAS と FIM」 金原出版			
履 修 上 の 留 意 点	ADL の問題解決は、生活をイメージしたうえで考えなければならない。その意味では障害学的な総合的知識が必要とされる。			
メ ッ セ ー ジ	特になし			